

令和 7 年度全日本私立幼稚園連合会  
第 39 回 東北地区教員研修大会  
〈岩手大会〉  
第 1 次ご案内

令和 7 年 2 月

東北各県私立幼稚園・認定こども園

設置者・園長・教職員 様

一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会

会 長 今 西 界 雄

春寒の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、令和 7 年度第 39 回東北地区教員研修大会〈岩手大会〉を次の要項により、岩手県の中部地区 花巻市・北上市を会場に開催いたします。

日頃、東北各県でご活躍の私立幼稚園・認定こども園の皆様が、実践を通して幼児教育の重要性を再認識するとともに、参加者の資質向上へとつながる良い機会となることを念願し企画いたしました。

沢山の皆様に参加していただきますようご案内申し上げます。

# 開催要項

- 1 主催 一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構  
全日本私立幼稚園連合会、北上市
- 2 協力 全日本私立幼稚園連合会東北地区会
- 3 実施 一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
- 4 後援(予定) 岩手県、岩手県教育委員会、花巻市、花巻市教育委員会、北上市教育委員会、  
学校法人北上学園
- 5 期日 令和7年10月10日(金)・11日(土)
- 6 会場 9日(木) 運営委員会、分科会打合せ  
ブランニュー北上 〒024-0061 北上市大通り1丁目10-1  
10日(金) 公開保育・分科会及び懇親会  
【花巻地区】4園(第1～4分科会)  
大谷幼稚園、幼保連携型認定こども園花巻みなみ幼稚園、  
中央みのり幼稚園、にじいろこども園  
【北上地区】4園(第5～8分科会)  
認定こども園専修大学北上幼稚園、認定こども園むらさきの幼稚園  
やさか幼稚園、ふたば認定こども園双葉幼稚園  
・第9分科会：ポスター発表  
・第10分科会：幼保小の架け橋プログラム  
・懇親会：ブランニュー北上  
11日(土) 全体会/閉会式  
北上市文化交流センター さくらホール  
〒024-0084 岩手県北上市さくら通り2丁目1-1

## 7 大会主題

一人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を  
～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

## 8 日程と内容

|           | 9:00       | 10:00                   | 11:00                     | 12:00       | 13:00        | 16:00 | 17:00                | 18:00                 |  |
|-----------|------------|-------------------------|---------------------------|-------------|--------------|-------|----------------------|-----------------------|--|
| 9<br>(木)  |            |                         |                           |             |              |       | 運営委員会<br>(ブランニュー北上)  |                       |  |
|           |            |                         |                           |             |              |       | 分科会打合せ<br>(ブランニュー北上) |                       |  |
| 10<br>(金) | 9:30<br>受付 | 12:00<br>オリエンテーション・公開保育 |                           | 13:00<br>昼食 | 16:00<br>分科会 | 移動    |                      | 懇親会<br>(ブランニュー<br>北上) |  |
| 11<br>(土) | 9:30<br>受付 | 10:30<br>開会行事           | 12:15<br>記念講演<br>(さくらホール) |             | 閉会<br>行事     |       |                      |                       |  |

- 9 記念講演 講師：NHK おかあさんといっしょ 第16代歌のお姉さん 神崎 ゆう子 氏  
演題：未定

10 分科会及び公開園一覧

|       | 園名                                     | 分科会テーマ   | 助言者  |
|-------|--|--|--|
| 1分科会  | 学校法人麻生大谷学園<br>大谷幼稚園                    | 子どもの発達・育ちの理解<br>～一人ひとりの成長を理解し共に育ち合う保育をめざして～                              | 花巻幼児教育アドバイザー<br>藤本誠子先生                                 |
| 2分科会  | 学校法人豊水久田野学園<br>幼保連携型認定こども園<br>花巻みなみ幼稚園 | 生活の中での育ち<br>～自分の成長を喜べる子どもに～  | 未定<br>(岩手県教育委員会<br>指導主事：高橋文子先生)                        |
| 3分科会  | 学校法人花北みのり学園<br>中央みのり幼稚園                | 幼保こ小の円滑な接続を考える<br>～遊びの中から小学校以降の学びにつなぐためには～                               | みどりの保育園<br>園長 高木宏子先生                                   |
| 4分科会  | 社会福祉法人セントラル<br>にじいるこども園                | 子どもや同僚と共に育つ保育者とは<br>～子どもの最善の利益につながる共主体保育について考える～<br>【ECEQ®実施園】           | ECEQメインコーディネーター<br>聖パウロ幼稚園<br>園長 坂水かよ先生                |
| 5分科会  | 学校法人北上学園<br>認定こども園<br>専修大学北上幼稚園        | 子ども理解を深めウェルビーイングを高める保育実践<br>～子どもの主体性「あれ？何だろう・やってみよう」を育む保育～<br>【ECEQ®実施園】 | ECEQメインコーディネーター<br>学校法人郡山開成学園郡山女子大学<br>附属幼稚園 園長 賀門康博先生 |
| 6分科会  | 学校法人尚恵学園<br>認定こども園<br>むらさきの幼稚園         | 子どもの主体性を伸ばす保育について<br>～主体的な遊びを支える保育実践を探る～                                 | 鳴門教育大学<br>教授 佐々木晃先生                                    |
| 7分科会  | 学校法人江南学園<br>やさか幼稚園                     | 愛されて育つ子ども<br>～子ども達が共に育ち合うための保育環境を考える～                                    | 東京大学大学院<br>教授 遠藤利彦先生                                   |
| 8分科会  | 学校法人双葉学園<br>ふたば認定こども園<br>双葉幼稚園         | 子どもに寄り添い共に作り出す遊びと環境<br>【ECEQ®実施園】  | ECEQメインコーディネーター<br>学校法人愛光学園福島めばえ幼稚園<br>副園長 伊藤ちはる先生     |
| 9分科会  | ポスター発表                                 | 私達のきらり☆<br>～園の質向上を目指して～  | 盛岡大学文学部児童教育学科<br>教授 石川悟司先生                             |
| 10分科会 | 幼保小の架け橋プログラム                           | 架け橋期を考えた一幼保小連携一  | 未定<br>(文部科学省)  |

## 大会主題

### 一人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を

#### ～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

子どもを取り巻く環境が大きく変化している現在、子どもの立場に立って社会全体で子どものことを考え「こどもをまんなか」に、質の高い幼児教育の実践を積み重ね、未来につなぐことが期待されています。全日本私立幼稚園幼児教育研究機構は、上記主題を令和6・7年度の研究主題として次の重点課題を示しています。

- 【重点課題1】 一人ひとりを尊重した質の高い教育・保育
- 【重点課題2】 園全体で学びながら問い続ける園文化の醸成
- 【重点課題3】 架け橋期を考えた幼保小連携

本大会の第1分科会から第8分科会は、公開園を会場とした公開保育と研究協議です。各園が積み上げてきた園文化を土台に、研究教育課題を視点としながら教育保育の充実を計り、分科会テーマにそって研究を深めて参りました。第9分科会はポスター発表とし、東北各園の好事例を一堂に会し、相互に学びあう場としました。どの分科会でも、目指す子どもの姿を掲げて実践している様子をご参観いただき協議を通して学び合っていたきたいと思えます。

幼稚園教育要領では、全ての子どもがその個性や発達段階に応じて最善の成長を遂げることを目指しています。この理念は子どもの権利条約に基づき、心身の健康、主体性の尊重、個々の成長を大切にすることであると考えられます。また、幼稚園教育要領が示す教育・保育の具体的な内容は、非認知能力の育成と深く関係しています。幼児期における生活や遊びの中で「一人ひとりを尊重した質の高い教育・保育」の構築と園及び家庭教育の在り方が問われています。特に、園全体で主体的に学びながら問い続ける園文化の醸成が必要です。園長・リーダーは自らの学びを深め、自園の研修体制の環境を整えることが求められます。重点課題1と2で、教育・保育についての見方を広めることに繋げるよい機会としてほしいと願っています。

第10分科会は、重点課題3の、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、架け橋期を考えた幼保小連携について学び合う分科会です。幼児期は、一人ひとりの多様性に配慮し、生涯にわたる学びや生活の基盤を作る時期です。遊びを通して育まれた学びの芽生えが小学校以降の資質・能力の向上に繋がるよう、各園の取組みを考える上で多くの示唆が得られるものと考えています。

## 第1分科会

### 子どもの発達・育ちの理解

～一人ひとりの成長を理解し共に育ち合う保育をめざして～

学校法人麻生大谷学園 大谷幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

この世に生を受けてから初めての集団生活を経験する幼児期。保育は子ども理解に始まり、発達や育ちをしっかり捉え正しく理解することは、教師に求められる資質・能力の基礎となる。

ダイバーシティ（多様性）やインクルーシブ（包括・多様）を考え、一人ひとりに応じた援助を行っていくことが大切である。子ども理解につながる記録の工夫や、子どもの成長、発達を可視化し、それをもとに教師同士で語り合い、多様な考えを大切にしながら多面的に子どもの姿を捉えていく姿勢が重要と考える。

そこで、子ども達が遊びの中で興味や関心をもち、自分らしさを発揮し、伝え合うことの喜びや感動を友達と共有しながら、共に育ち合う保育を探っていききたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 年齢の発達や育ち・環境構成について、資料を参考に話し合い理解を深める。
- 2 園内研究テーマ「ワクワクした遊びを通じて学びの芽を育む」に基づき、子ども達の姿を読み取り話し合うことで、その後の保育に活かし遊びを広げていく。
- 3 教育アドバイザー派遣を依頼し、勉強会を行う。
  - ① 各クラスのドキュメンテーションを持ち寄り、子どもの姿を話し合う。
  - ② 園内公開保育を行い、実践内容についてアドバイスを受け保育向上に繋げる。

## 第2分科会

### 生活の中での育ち

～自分の成長を喜べる子どもに～

学校法人豊水久田野学園 幼保連携型認定こども園 花巻みなみ幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

子ども達は、いろいろな『ひと・もの・こと』と出会い、関わりの中から「やってみたい！」と思うものを見つけて手を伸ばす。五感を通して得られた情報を脳に集め、考えたりしながら身体表現機能を使って対処していく中で試行錯誤し、心と体を動かしながら成長していくと思われる。身近な人にありのまま温かく見守られ、一人の人として尊重されながら生活を送る事は、子どもの自主性を育み、自分の存在を肯定して生きていく力となるのではないかと考える。

園は、子ども達の「やってみたい！」という意欲を大切に様々な体験や経験が出来るように支え、そしてその中で「やったら出来た！」「先生見て！見て！」等と子ども一人ひとりが自分の成長を喜べる場所でありたい。

園に伝わる活動の経験や、子ども達の遊びの広がりの中で、「やってみたい！明日もやりたい！（子どもの日案）」という意欲活動の環境設定や、それと同時に年齢相応の（心と体を支える）身体表現機能のバランスと、子どもの育ちや成長の喜びを支える保育者の配慮工夫を深めていきたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 『自分の成長を喜べる子ども』について話し合い、理解を深める。
- 2 日々の保育実践の中で、子ども達の『自分の成長を喜んでいる姿』に着目し、エピソード記録を持ち寄る。それをもとに様々な観点から話し合い共有し合う。
- 3 子どもの心を揺さぶる意欲活動の環境設定や、子どもの育ちや成長の喜びを支えるためにはどのような配慮工夫が必要なのかを探っていく。

## 第3分科会

### 幼保こ小の円滑な接続を考える

～遊びの中から小学校以降の学びにつなぐためには～

学校法人花北みのり学園 中央みのり幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

日々の保育の中で、幼児教育が「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期」であることを理解し、その基礎を培うための保育の質の向上、遊びを通して幼児が主体的に遊ぶ姿が学びにつながっていくことの大切さを感じている。

幼小接続において、私たちは小学校以降に育まれる資質・能力を見通し、遊びを通して学ぶ幼児教育の充実に取り組むことが求められている。そして、期待する子ども像を言語化しながら共有し、相互理解が不可欠である。

自園では小学校区との交流を進める中で、幼小接続の重要性について再認識している。そこで、幼児期の遊びは小学校以降において、主体的に自己を発揮しながら、学びに向かうことを可能にするための重要な時期であることを踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に、日々の遊びの中から学びの芽生えや育ちが、小学校での学びにどのように繋がっていくのか探っていきたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 研究テーマについて保育者間で話し合い、共通理解を図る。
- 2 園の教育目標から「期待する子ども像」を具体化し、園の良さや課題を把握する。
- 3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、ドキュメンテーションから子ども達の育ちや学びの様子を読み取り、日々の保育を小学校教育に繋げられることを意識し、研究していく。

## 第4分科会

### 【ECEQ®】子どもや同僚と共に育つ保育者とは

～子どもの最善の利益につながる共主体保育について考える～

社会福祉法人セントラル にじいろこども園

#### ◆テーマの捉え方

子ども達の人間形成の基礎に大きく関わる私たちは、子どもにとってよき理解者であり憧れのモデルであり、共同作業者であると考えている。

日常生活の中で、子どもと保育者の両者がお互いに「私は私」の部分を表現し、認めたり反発したりする中で「私達の中の私」が深まっていくだろうと考える。お互いの主体性のバランスを保育者が調整していきながら双方向的で互恵的な関係が大切と考えている。

そこで、自園が考える「子どもにとって最善の利益」につなげるためには、遊びや生活の中で出てきた課題を共にみんなで対話しながら、考えを出し合って解決したり、お互いが折り合える（納得できる）着地点を見つけたりしていくことが大切であると考えている。そのために、保育者間で対話を深め、多様な考え方を大切にしながら多面的に子どもの姿を捉え、遊びの広がりが見えてくる関わりをしていくことが重要なのではないだろうか。互いに学び、共に成長し合える保育について、さらに理解を深めていきたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 分科会テーマでもある「子どもや同僚と共に育つ保育者とは」について、保育者それぞれがどんなイメージを持っているのか、どういうものを理想としているかなど保育者間で語り合う。
- 2 日々の保育の中で主体的な子どもの姿の記録を取り、それを基に「見取り」の質を高めていく。
- 3 園内で公開保育を行い、子どもの姿を幅広い視点で捉え、多面的に読み解きと意味付けができる専門性について探っていく。

## 第5分科会

### 【ECEQ<sup>®</sup>】子ども理解を深めウェルビーイングを高める保育実践 ～子どもの主体性「あれ？何だろう・やってみよう」を育む保育～ 学校法人北上学園 認定こども園専修大学北上幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

子ども理解に努めることは、教育目標達成や子ども達の園生活のウェルビーイングを保障する第一歩であると考えます。

本園は、こども園移行やコロナ禍を経て行事や活動・生活の仕方など見直しをしながら「子どもの発育・発達に即した保育」「未満児から以上児、幼小接続を見据えた連続性のある保育」を心がけ保育実践を行っている。また、研究テーマである「子ども理解」に関しては、子ども達の好きな遊びの発見や把握することで、発達に応じて一人ひとりにあった指導・援助を目指すことができると考えた。さらに、子どもの個性と良さの理解、保育記録（観察表や座席表）の活用、遊びの創造や工夫を行い、これを受けて、環境構成の研究及びアクティブラーニングの実践を柱に引き続き取り組んでいきたい。

また、ECEQ<sup>®</sup>公開保育を通じて自園の保育を振り返り、他園からご意見をいただきながら、子どもの発達や育ちの理解を深め、保育の質を高めていきたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 園内研修や保育観察により、子ども理解を深め、子どもの主体性を育む環境を考える。
- 2 PDCAサイクルを活かした子ども理解と実践の質的向上を図る。
- 3 ECEQ<sup>®</sup>コーディネーターと共に自園の良さと課題を認識しながら理解を深める。

## 第6分科会

### 子どもの主体性を伸ばす保育について ～主体的な遊びを支える保育実践を探る～

学校法人尚恵学園 認定こども園 むらさきの幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

本園は、「恵まれた環境の中で様々な体験を通して心身共にたくましく情操豊かな人間性を身に付ける」を教育目標とし、日々保育に努めている。教育目標に近づくために一人ひとりの幼児理解に努めながら関わり子どもの成長を支えていきたい。子どもが興味や関心を示し「おもしろそう」「やってみよう」と思い行動する姿を「主体的」と捉えている。しかし、主体性が感じられる場面が断片的であったり一過性のものに感じられることもあるため、改めて教育理念の理解を深めた上で環境構成や援助はどうあるべきかを考える必要性を感じた。また教師の価値観や考え方が様々であることは必然と捉え、教師間での共通理解や援助の在り方に一貫性を持たせることでより子ども一人ひとりの主体性を育むことが出来るのではないかと考えた。行事や集団での活動が多くあることが本園の特色であるがその中で子どもが自己を十分に発揮するためにはどのような保育を展開していくと良いのか、また子ども主体の遊びから主体性を伸ばす保育とはどうあるべきかを考えていきたいと思い、主題を設定した。

#### ◆研究の手がかり

- 1 「主体性」の言葉の意味を理解し、目指す子どもの姿について話し合いを重ねる。
- 2 日々の保育から「主体性」が感じられる事例を出し合い考察する。
- 3 環境や援助の在り方を見直しながら、遊びや生活の場を再構成していく。

## 第7分科会

### 愛されて育つ子ども

#### ～子ども達が共に育ち合うための保育環境を考える～

学校法人江南学園 やさか幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

本園の教育目標に「自然や社会に対して興味を持つ子に」があり、その具現化として～他の子へのいたわりや思いやりの心を持つ子～と掲げている。本園は、子ども達が「乳児期にたくさんの家族に愛されて育ってきた子ども達」を前提として、子ども達が遊びや活動において、明るく楽しく生活が出来ることを目指して日々保育をしている。家族に愛されて育ってきた子どもは、自分の経験から優しさや思いやりの心が育ち、友達との関わりの中で自分から気がついて、友達や小さい子へ寄り添う行動を表すことができると考える。

新学期や新しい遊びを提供する時に、教師がその正しい使い方や安全な遊び方を繰り返し確認することで、子ども達同士が自分や友達の安全を守れるようになってほしい。

教師が、家庭との関わりを密にし、子ども達一人ひとりに寄り添い、子どもの思いを受けとめ、信頼関係を築きながら子ども達が安心感をもち、共に育ち合うための保育環境を考えていきたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 愛着形成の基盤となる家庭環境を教師間で共有する。
- 2 異年齢との生活や遊びの様子から子どもの姿をとらえる。
- 3 一人ひとりの思いに寄り添い、共に育ち合うための保育環境を考える。

## 第8分科会

### 【ECEQ<sup>®</sup>】子どもに寄り添い共につくり出す遊びと環境

学校法人双葉学園 ふたば認定こども園双葉幼稚園

#### ◆テーマの捉え方

本園は仏教保育を基盤とし、主体的な「心情・意欲・態度」の育成を目的とし、一人ひとりの存在を認め合い、「共に生き、共に育ち合う保育」の実践を目指している。

子ども達にとって遊びは「なぜ」「なんだろう」「やってみたい」など興味・関心・探求心が育つ学びの場となる。その中で、一人ひとりが自分らしさを表現し、主体的に「遊びを楽しめる・夢中になれる遊び」となる環境や保育者の関わり方について、自分達の保育を振り返り、子どもの育ち、自園の良さや課題を職員間で共有し合いながら、予想される子どもの姿など見通しを持った保育の中で、子どもと保育者が共に育ち合う保育をECEQ<sup>®</sup>コーディネーターと共に考え実践を通して探って行きたい。

#### ◆研究の手がかり

- 1 子どもならではの視点による発見や疑問を継続的に視覚情報で共有しながら、連続的な遊びに繋がる手立てを子どもと共に探る
- 2 保育者も一体感をもって遊びこんでいく中で、子どもがどのようなことに、探求心や楽しさを感じ、充実感を味わうことができるのか探る
- 3 自分達の日々の保育の振り返りを行い、子どもの姿や課題を保育者間で共有し援助や環境について考える



## 第9分科会

### 私達のきらり☆ ～園の質向上を目指して～

ポスター発表

#### ◆テーマの捉え方

無償化が始まって以来、幼児教育への公的投資は益々大きくなっており、同時にそれに見合うだけの質の高い教育を提供できるか、幼児教育の質の向上が求められている。私学の幼児教育に携わる私達保育者は、建学の精神に基づいた理念を土台に据え、日々、目の前の子ども達と向き合い、ねがいをもって教育・保育を行い、外部に発信し、求められている質の向上に向け研鑽を積んでいる。

今回、東北各園の質向上を目指した様々な取り組みや、園ならではの『きらり☆』と光る事例をポスター発表していただき、教育・保育を可視化し、様々な実践を発表者・参加者相互に分ち合う場を設ける。各園の『きらり☆』が、発表した園にとっても、参加した園にとっても、新しい発見や刺激、共に研鑽しあいながら質を向上するきっかけにもなることを期待する。

#### ◆内容

午前 ポスター発表Ⅰ

午後 ポスター発表Ⅱ

- ・参加者は会場を自由に回りながら各園の発表を聞き、その場で対話を通じた質疑応答を行う。
- ・発表Ⅱの終了後に、講師による講演を行う。

## 第10分科会

### 架け橋期を考えた一幼保小連携—

幼保小の架け橋プログラム

#### ◆テーマの捉え方

架け橋期は、生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために貴重な時期であり、幼児教育と小学校教育を円滑に接続させることで、この時期の教育を充実させることを目的として「幼保小の架け橋プログラム」が推進されている。幼稚園、保育園、小学校が接続し、幼保小の教育のつながりを意識した活動が子どもの豊かな体験を生み出し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性を配慮したうえですべての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指していくことが期待されていると考えられる。

10分科会では、研究発表をもとに学び合い、情報を共有しながら理解を深めていきたいと考えている。幼保小の架け橋プログラムの活動の現状と課題を踏まえ、今後どう向き合っていくべきかを考察し、これまでの取り組みより一歩進んでいくことを目指し学び合える場としたい。



**令和 7 年度全日本私立幼稚園連合会  
第 39 回東北地区教員研修大会〈岩手大会〉**

**大会事務局**

〒020-0024

岩手県盛岡市菜園一丁目 3-6 農林会館 6 階

一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会

TEL 019-654-1434 Fax 019-654-1437

<http://iwakids.ciao.jp/>